

し い み

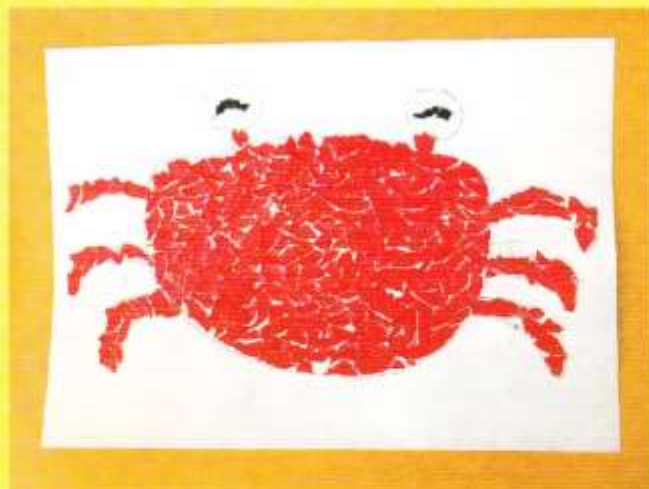
# 椎 の 実

No.109  
平成29年  
12月30日発行

岐阜県手をつなぐ育成会 会報

～手をつなぐ育成会は知的障害をもつ人の家族の会です～

## 椎の実ギャラリー



### 「ペンギンとかに」

岐阜地区知的障がい者育成会  
岐阜本巣特別支援学校高等部1年

おぎそ あおい  
小木曾 蒼くん

### 109号の主な内容

- 全国大会・東海北陸大会の報告
- 副理事長はこんな人
- 知的障害のある人の選挙への取り組み
- 岐阜清流高等特別支援学校

おぎそ あい  
小木曾 愛 (蒼くんのお母さん)

小さな頃、絵を描いてもぐるぐると描くことしかできず、蒼にとって苦手・できないものという私の思い込みにより、その後は絵を描くことがありませんでした。でも、学校でイラストを見て描くとなんと！描くことができました。しかも上手で皆のお手本にさせてもらったなんてビックリです。そんなことがあり、絵を描けるということを知り嬉しくなった私が、早速家でも描いてもらった第一号がこの「ペンギンとかに」です。色付けは得意なちぎり絵でしました。特に私はこのペンギンが大好きです。

表紙の作品募集中！あなたの作品の写真を送ってください。採用された方には、図書券をプレゼント！

# 大会報告



## 表彰された方々

### 全国大会表彰

**澤井 基光** さん

岐阜県手をつなぐ育成会 副理事長  
NPO法人「みつばちの家」代表  
関市社会福祉協議会 会長  
岐阜県民生委員  
児童委員協議会 会長

#### <澤井さんコメント>

長年の育成会活動に対して、このたび表彰を受けることになり、大変喜んでおります。親の育成活動を引き継ぐ形で育成会とのかかわりを持ち、20数年にわたる活動を通し多くの仲間たちとの出会いがあり、また多くの障害のある方々と出会いました。この出会いが今の私を創ってくれました。所詮一人は、一人、多くの仲間が私の宝であり、財産となりました。ありがとうございました。

### 東海北陸大会表彰

**奥田 靖彦** さん

岐阜県手をつなぐ育成会 理事  
県立はなの木苑育成会 会長  
岐阜県福祉事業団評議員

#### <奥田さんコメント>

表彰にふさわしい活動を心がけます。ありがとうございました。

**高田 恵美** さん

岐阜県手をつなぐ育成会 理事  
西濃地区手をつなぐ育成会 副会長  
大垣市手をつなぐ親の会 役員

#### <高田さんコメント>

育成会に入会し、たくさんの方々に出会い、色々勉強させていただきました。不安に思っていること、悩んでいること、一人で抱え込まず相談することができ、これまでやってこれたのも仲間がいたからだと思っています。  
息子も26歳になり、毎日作業所へ通い、同じことの繰り返しですが、生活は安定しています。彼にとってその生活がどれほど大事なことが改めて感じています。  
ありがとうございました。



## 全国大会報告

9月23・24日

岐阜県手をつなぐ育成会理事  
西美濃の里保護者会会長 **國井 英明**

全国から2日間で延べ4000人に迫る参加と、札幌でも老舗の「ホテルロイトン札幌」で開催され、まず驚きと北海道育成会の力を見た思いがしました。ロイトン札幌では、6分科会と懇親会が、道民活動センターでは本人大会と6分科会が開催されました。

私は「育成会第4分科会：暮らし」に参加しました。討議テーマは「暮らしを支える相談・支援のあり方」「自立支援事業について」「地域生活拠点事業について」「グループホームの今と課題」「在宅を支える家族支援のあり方」「本人の想いに沿った暮らしをつくる」です。

最初に福岡寿氏の基調講演があり、自らが中心となり実践してきた長野県の地域生活移行の取り組みの中で「暮らし」ではなく「暮らしを支える相談・支援のあり方、考え方やその方法についてのお話でした。先進地長野県の話聞き、参加者の中には「長野に転居しようか」などと冗談とも本気ともとれる感想も聞かれました。

午後は、コーディネーターと3名のシンポジストの討議が行われました。3名のそれぞれの施設・組織の活動についての考え方や現状の報告が中心で「本人の思いに沿った暮らし」という点では素晴らしい内容でした。この分科会ではできるなら、施設の職員方や指導員の方に参加していただき、将来の方向性を討議していただくのがベストではないかと感じました。

分科会の討議や、浅野史郎氏の講演を聞いて、施設よりグループホームへ、の方向性を強く感じましたが、やはり本人の障害の状態や住んでいる地域の状況によって、多様な方向性があるのではと思います。

2日目の全体会の中央情勢報告では、会員が減少しているのが原点に返った活動の必要があるとされました。10分程度の報告で、一番大事な部分が分析されていないのではないかと感じました。もっと育成会活動や保護者の活動についての報告、今後の活動の参考になるような成功事例など示してほしいと感じた部分もありました。

障害のある人やその家族の思いや権利を代弁し、ともに支えあいながら課題の解消に向けて活動する団体の必要性を強く感じています。

# 東海北陸大会報告

10月21・22日

岐阜県手をつなぐ育成会理事

大野山ゆり園保護者会会長 坂垣内 孝幸

10月21日(土)22日(日)に富山市にて開催された第50回手をつなぐ育成会東海北陸大会に参加させて頂きました。私は、第5分科会「つなぐ」～親が元気なうちにてできること～という、高齢化問題を扱ったテーマの分科会への参加でした。会場は全体会の会場でもある大ホールで参加人数も多数で、本大会に限らず、ここ数年の育成会会員の高齢化問題に対する関心の高さを示している状況でした。



▲富山県育成会の方々が、てきばきと受付をされていました



▲第5分科会 春見理事長もパネリストで登壇



▲鼓友 夢光組(こゆう のぞみくみ)の皆さんの息のあった壮大な太鼓演奏

2日目のシンポジウムは、「どう変わる?どう使う?障害者総合支援法」というテーマにて行われました。その中でも「地域生活支援拠点」に重点を当てた内容でした。

「地域生活支援拠点」は1年24時間、相談支援、緊急のショートステイの対応等、今困ったことへの支援の拠点となるもので、在宅やGHの利用者にとっては、切実な問題の解決の一つになるものと思われます。しかし、シンポジストの福岡先生のお話によれば、「職員の資質や思いが余程高くないと…」とのことでした。内容を聞く分には「地域生活支援拠点」は今後絶対に必要な資源とは思われますが、前途の厳しさを感じました。在宅者が中心の高山地区手をつなぐ育成会が、高山市に以前より要望している内容とほとんど同じ機能であり、飛騨地区にも早々に整備されてほしいものと感じました。

分科会参加で、総じて感じたのは、高齢化への対応について、つつい「まだまだ大丈夫」と先送りしてしまいがちになりますが、先のことは判らない以上「今出来ること」をやっておかないといけない。そして成年後見人は先々、更に必要性が高まる制度で、出来れば親や親族でなく、法人後見等、第三者後見人が適切になるのではないかとということでした。



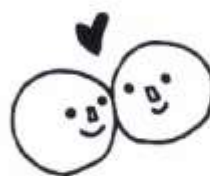
▲母の歌 斉唱



▲本人大会決議はご本人さん達が登壇し、男性代表女性代表の2人が緊張しながらも元氣な声で決議文の朗読

## 岐阜県手をつなぐ育成会の

## 副理事長はこんな人たちです



①所属、本人との関係 ②地区での活動の様子 ③好きな言葉や大切にしていること

岐阜

大谷 弘



- ①長男が「さわらび苑」(各務原市)入所
- ②知的障がい者のヘルパー、視覚障がい者のヘルパー、各務原市障がい者就労支援コーディネーター、「みっばらクック」障がい者サロンの世話役
- ③現場の中から障害のある人の気持ちを大切に、寄り添う支援を心がけている

西濃

近藤 則朗



- ①次男が「かなみ作業所」(大垣市)通所
- ②西濃地区手をつなぐ育成会会長、大垣市手をつなぐ親の会会長、大垣市知的障がい者相談員、知的障がい者社会人の会「つくしの会」保護者会長。ふれあい観劇会、施設見学、知的障がい者を積極的に雇用している企業見学、「つくしの会」によるボランティア活動、レクリエーション等。
- ③常に「一期一会」の気持ちでいつも障害のある人に寄り添うこと。

中濃

田中 眞澄



- ①長女が、平日はグループホームに宿泊、昼間は社協運営の事業所に通所しています。
- ②視覚障がい者の移動支援・音訳などにボランティアとして取り組みながら、保護者仲間と立ち上げたNPO法人でグループホーム運営にも携わっています。
- ③すべての人が(自分も含め)「その人らしく、いきいきと輝ける」ことを大切にしていきたいと思っています。

東濃

奥山 完治



- ①三女が恵那たんぼぼ作業所に入所
- ②恵那市社会福祉協議会理事、恵那市知的障がい児・者育成会会長
- ③多忙な人が時間をうまく使っている、そんな人を尊敬していますが無駄な一日を過ごしていると反省する毎日です。

飛驒

下ノ下 久美子

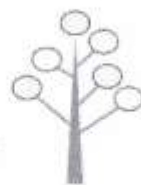


- ①高山地区手をつなぐ育成会会長。次女が就労移行支援事業所で一般就労に向け訓練中。
- ②高山市障害者雇用創出事業就労支援員、高山市地域自立支援協議会「地域生活・権利擁護部会」所属、知的障害者相談員
- ③課題ばかりではなく、本人の持っている強みや、良いところを見つめられる自分でありたいと思っています。



誰もが投票しやすい環境をつくるために

## ～各務原市育成会の投票支援の取り組み～



岐阜県手をつなぐ育成会副理事長  
各務原市手をつなぐ育成会会長 大谷 弘

### 選挙管理委員会への訪問

平成 28 年 7 月 10 日 参議院議員選挙

選挙権が18歳に引き下げられました。初めての選挙をする人にとっては戸惑いや不安があります。

また「うちの子に選挙は無理」と思い込んでいる家族もいます。

そこで、投票日の前に各務原市の選管を訪問しました。公選法の制約もありたくさんのハードルがあることがわかりました。一方で、代理投票を利用できるにもかかわらず方法を知らない人が多く、広報でもっと伝えてほしいと要望しました。

### 知的障害者投票できず

平成 29 年 4 月 23 日 各務原市長選挙

知的障害者の男性が期日前投票で、本人確認ができないと判断され、投票ができませんでした。

この事件を契機に市選管と知的障害者の投票支援に対する選挙の合理的配慮について打ち合わせを重ねてきました。

### 投票の支援をお願いします

平成 29 年 10 月 22 日 衆議院議員選挙

各務原市では多くの改善がなされました。

- ①代理投票（代筆）の広報が初めてされました。
- ②支援カードが作成されました（各務原市ホームページからダウンロード可能）
- ③障害者施設や特別支援学校へ支援カードの案内がされました。
- ④選管から職員向けマニュアル「障害のある方等への投票所における接遇について」が作成されました。

#### 投票の支援をお願いします

必要な支援にチェックして下さい。

- 代理記載（代理投票）
- その他の支援

各務原市選挙管理委員会

▲支援カード…名刺サイズで持参しやすく工夫しています。

### 研修会「知ってほしい知的障害」

各務原市役所の障害者差別解消推進員に「知的障害のあるひとに出会ったら」のサブタイトルで

- ①障害を体験してみよう
- ②障害者が不審者に間違えられた
- ③地域でどんな暮らしをしているの
- ④窓口での配慮 についての研修会を開きました。

### 意思のない人はいない

投票行動への意識は、保護者の間で大きな温度差があります。障害の軽重に関わらず、一票の重さは変わりません。家族や支援者がいかに一人ひとりに合わせた意思決定支援をするかが問われています。

### 家族支援ワークショップを開催しました

岐阜県手をつなぐ育成会理事 寸田 さつき

家族支援委員会は、平成29年9月20日各務原市福祉の里にて、「障害のある子どもがいても 私らしく生きるための 家族支援ワークショップ」を、各務原市手をつなぐ育成会より、一昨年から続いて3回目の要請で、福祉の里に通園している子どもさんが母子分離で療育を受けている間のお母さんたちの「マザーズデー」の催しとして行いました。参加者は20名ほどで、ほとんどは若いお母さんでしたが、「忙しいママにかわって参加しました」と言われるおばあちゃまや、「若いお母さんのお役に立てれば…」と各務原市育成会のベテランお母さんも参加してくださいました。子ども達の療育の間の1時間半という短い時間でしたので、いつものプログラムをできるだけコンパクトにまとめ、けれど、大切な部分はしっかりと…と、委員が工夫をして、とにかく、育成会の家族支援ワークショップの「思い」をお伝えしました。

終了後のアンケートでは、「大変分かりやすかった」(10名)「参加してよかった」(14名)「知らない情報をたくさん聞けてよかった」「先輩の話が聞けて気持ちが楽になった」など嬉しい感想をたくさんお寄せいただきました。

ワークショップのテーマ「まず親自身が変わろう…子育てと親自身の人生のバランスを考える」という事は、もう少し時間が必要かもしれませんが、とにかく「一人ではない」ということは感じていただけたのではないかと、育成会がこれからも「そばにある」のだということを知っていただけたのではないかと感じました。

育成会の活動として、今後もこのような地道な活動を続けていくことが大切だと思いました。



### 全国障害者スポーツ大会が 開催されました

第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」が10月28日から30日にかけて行われました。

岐阜県選手団は、団体競技ではサッカーが3位に入賞。個人競技は陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリングに出場。全部で金メダル19個、銀メダル13個、銅メダル12個を獲得しました。



大垣市  
手をつなぐ親の会  
興文中学校2年  
服部綾香さん  
水泳で二つのメダル  
を獲得しました！

### 「障がい者110番研修会」 を開催します

定員80名

定員に達し次第、  
受付を終了  
いたします。

テーマ

本人のサインを理解するために

平成30年1月18日(木)

- 13:00～ 受付
- 13:30～15:30 講演会
- 16:00～17:00 個別相談会



講師 井川 典克 氏

岐阜市民会館 2階 会議室80

岐阜市美江寺町2丁目6番地

## スポーツ吹き矢研修会を開催しました

岐阜県手をつなぐ育成会副理事長

患那市知的障がい児・者育成会会長 **奥山 完治**

スポーツ吹き矢は、近年健康向上のため多くの人たちに普及してきました。過激な運動はかえって疲れてしまう。楽しんでゲーム感覚で知らないうちに健康になれる。まさにスポーツ吹き矢は、障がい者にとって理想のスポーツだと思えます。

10月3日、スポーツ吹き矢指導のため、下呂市の「光の家」を訪問しました。

対象者は40名ほどみえるようですが、まず10人くらいの方々を指導することにしました。入所者10名、職員3名ほどの方々に、模範演技とルールの説明、そして実技指導を行いました。

全員が初めての経験で、はじめは戸惑ったようでした。

筒を吹くことができず息が漏れてしまう人や、持ち方がわからず矢が抜けてしまう人。しかし、2時間ほどするとだんだん面白くなり、30cm的的に当たると大変快感を感じるようになりました。私たちもその喜びを共に感じました。

健康になり、楽しくスポーツできる。これからも続けたい。

これからの育成が楽しみです。



## 平成30年度 年間予定

6月24日(日)	第60回	岐阜県手をつなぐ育成会総会及び中濃大会	羽島市
10月27日(土)	第51回	手をつなぐ育成会東海北陸大会	志摩市
28日(日)			
2月23日(土)	第5回	全国手をつなぐ育成会連合会全国大会	京都市
24日(日)			

## 大切なお知らせ

**会員募集中！**  
**表紙の絵も募集中！**

こちらまでご連絡ください

## 岐阜県手をつなぐ育成会

〒500-8309

岐阜市都通2-2 岐阜市民福祉活動センター1階

TEL 058-253-8062

FAX 058-254-9210

E-mail: ikuseig@alpha.ocn.ne.jp

HPアドレス: <http://ikuseig.qcweb.jp/>

ともに助け、  
ともに生きる。

知的障がいのある方、発達障がいのある方の総合保険をお届けします

55年



少額短期健康総合保険 (原告知50) 2016年最新

こんな時にお役に立ちます

病気・ケガで入院した場合

第三者へ損害を与えた場合

被害にあって弁護士に相談したい場合



特別支援教育を必要とされる方のために生まれました



権利保護補償付傷害保険 (2016年最新)

**ぜんち共済株式会社**

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-8 岩本町シティプラザビル5F

詳しい資料請求、お問い合わせは



**0120-322-150**

ぜんち共済

検索

<http://www.z-kyosai.com/>

平成29年4月に開校しました

## 岐阜清流高等特別支援学校は

こんな学校です

岐阜清流高等特別支援学校は、知的障がいの程度が軽度である生徒を対象とした、県下初の職業教育に特化した高等部単独の学校です。

生徒全員が、卒業後、希望する企業等に就職し、社会の一員として活躍できるよう、次のような特色をもった学校運営を行っています。

- 1 就職に必要な知識・技能を身につけるため、企業の雇用ニーズに対応した選択専門コース（工業、園芸、食品、ビジネス情報、福祉、ビルクリーニング）、必須専門（喫茶サービス、ロジスティクス）を設定しています。それぞれのコースに専用の施設・設備を揃え、専門性の高い教員が授業を行います。
- 2 卒業後、地域社会の中で人と関わりあいながら自活できる力を身につけるため、授業の一環で地域の方を対象に喫茶サービスや介護・清掃サービスを提供したり、宿泊訓練を行ったりするなかで、コミュニケーションや自活の力を養っていきます。
- 3 地域の皆様に愛され、生徒や学校を応援していただけるよう、地元の祭りなどに積極的に参加するとともに、学校祭には地域の方にも参加していただいています。来年度、県立学校初めとなるコミュニティスクールの導入を目指しています。

岐阜清流高等特別支援学校校長 土井 充行



玄関の風景



ビルクリーニング



食品加工

喫茶で食べる  
ことができます

### 保護者の声

息子は、岐阜清流高等特別支援学校の第1期生としてこの4月に入学しました。

高等部単独の特別支援学校で 職業教育に特化した授業を受け、社会で自立できるように学んでいます。県内に来て初めての高等特別支援学校ということで どんな学校になるのか、その学校でどんな風に子供が成長できるのか不安と期待でいっぱいでした。

旧藍川高校の校舎を利用した校舎は新設の校舎に引けを取らず、6つの選択専門コース、必須専門の喫茶サービスの設備も素晴らしいものです。また、建物以上に素晴らしいのが生徒たちを教育してくださっている先生方です。生徒一人ひとりをよく見て伸ばそうと指導・教育してくださっています。

校内にワンルームマンションのような宿泊設備もあり、学期に一度自炊して自立生活を訓練する学習もあります。また学校内だけの学びではなく、校外に出て現地集合解散の行事もあり、自力で移動する力も付けてもらっています。学校地元の自治会さんとも繋がりを作ってください、地域の方とコミュニケーションを図れるような企画（祭りなど）もあり、いろんな経験をさせてもらっています。

10月より企業内実習も始まりました。私の息子は自宅から15キロ離れたデイサービスセンターに公共交通機関を使って通っています。実習前日になると自ら当日の天候をチェックし、持ち物の用意をして早目に就寝するなど今までにない行動が増えてきました。自分でできることが増え、自信を持って生活できるようになってきたのも 信頼できる先生や仲間と囲まれているからだと思います。最近はちょっと頼もしくなった息子を朝送り出すのが楽しくなってきました。親である私もがんばらねば、と思わせてくれます。

来年度は二期生も入学してくるのでまた本人の社会が広がり、いろんな意味で楽しみです。

神崎悦子（神崎大輔君のお母さん）



この会報は赤い羽根共同募金の配分金によって発行されています。